HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学新渡戸カレッジ : ボランティア : 2014年度報告書 : 改訂版
Author(s)	木村, 純; 川畑, 智子
Description	編集 : 木村 純 (北海道大学高等教育推進機構高等教育研究部 名誉教授); 川畑 智子 (北海道大学高等教育推進機構高等教育研究部 特任准教授); 新渡戸カレッジオフィス
Relation	文部科学省・経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援プログラム
Issue Date	2015-11
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/70096
Type	report
File Information	volunteer_2014_rev.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

北海道大学　新渡戸カレッジ

ボランティア

2014 年度

報告書　改訂版

文部科学省 経済社会の発展を牽引する
グローバル人材育成支援プログラム

北海道大学新渡戸カレッジ
2015 年 11 月

編集
木村　　純　　（北海道大学高等教育推進機構高等教育研究部　名誉教授）
川畑　智子　　（北海道大学高等教育推進機構高等教育研究部　特任准教授）
新渡戸カレッジオフィス

目次

はじめに 1

１． 授業概要 3

２． 年間行事 4

３． 履修状況 5

４． 集計結果 6

⑴全体の集計結果 6

⑵ 取得単位ごとの集計結果 7

１． ２単位取得者の特徴 7

２． １単位取得者の特徴 8

５． 学生が参加したボランティアの種類 12

６． 活動内容 13

７． 学んだこと、気が付いたこと 17

８． ボランティア参加の動機や理由 22

９． 教員への要望 28

10. 参加先からのコメント 29

資料 31

１． 事前アンケート 31

２． 体験報告会の模様 34

３． その他 35

４． 過去のニューズレター記事 36

はじめに

2014 年度　新渡戸カレッジ　特別教育プログラム「ボランティア」を終えて

高等教育推進機構　名誉教授　木村　純

新渡戸カレッジ特別教育プログラムとして、初めてボランティア活動体験を含む「ボランティア」の授業に取り組みました。

この授業を始めるにあたって、私たちは、授業のねらいを次のように考えました。ボランティアは、第１に、その活動を通して、学生たちが「市民」として成長し、民主的で平和な社会を実現するうえで大切な活動であり、活動の経験を通して、学生たちが学んでいることが社会で生起している現実の問題の解決にいかに役に立つのか、またそのために何を学ばなければいけないかを真摯に考える機会にすること。第２に、ボランティアは国際的にも、平和を実現し，貧困をなくし，教育制度を整え、国境を超えた相互理解をすすめる上で大切な活動であることについて、自分自身の活動を通して考え、気づくこと。
そのために、ボランティアの理念と意義、方法を講義や討論を通じて学び，実際に活動を体験し、そのふりかえりすることを通して学ぶことです。

講義は、（１）ボランティアとは何か、（２）ボランティアにはどのような活動があるか、（３）ボランティアを始める際に大切なことについて、行いました。講義でとくに強調したことは、ボランティアの自発性、主体性ということであり、「いわれなくてもする、いわれてもしない」（草地賢一「市民とボランティア」酒井道雄編『神戸発阪神大震災以後』岩波書店，1995 年）ということや活動から生じるジレンマや悩みを自ら積極的に引き受けることによって人間として成長できる活動であること、「とにかく一度やってみること」が大切で「やる以上は責任をもつこと」が求められるが「やめて、次に進むことも大切である」こと、活動することで直面した「できごとの意味を考える」ことが大切であることをとくに強調しました。

したがって、活動を始めるに当たっては、活動先のリストにできるだけ多くの活動を上げ、学生自身の希望と意志によって活動先を決めるということを重視しました。また、活動を終えて、報告書を作成し、報告会で発表するまでに、教員との対話を通じて、ボランティア活動を体験した学生ひとりひとりが自らの活動をふりかえることにより、自分自身の気づきを明らかにすることや体験を通じて何を学んだかを確認することを大切にしました。

ボランティア活動の体験先については、履修者の意向を踏まえて、社会教育施設（博物館、図書館）、社会福祉施設（高齢者、障がい者施設等），子どもの学習支援等を紹介しました。また海外ボランティアの相談等にも応じ、３名の学生が海外でボランティア活動を体験しました。その他に、履修者が既に取り組み、授業期間中も継続したボランティア活動をこの授業のボランティア体験として認めたもの（よさこいソーラン祭り学生実行委員会，「まなとぴあ」など）や当初私たちのリストには上がっていなかった活動について履修者自身が見つけてきたものを受け入れ先と相談したうえで認めたものもあります。準備期間が短いにもかかわらず、実際には活動に至らなかったものも含め多くの施設、団体が快く学生の受け入れを認めて下さり、実際に活動を行った施設、団体においては温かい指導をしていただきました。

このようにして、2014 年度前期・後期を通じて、22 名の学生が履修完了に至りました。この活動体験を通じて、本報告書の 17～22 頁に示すように学生たちは多様な学びを行いました。いままで外側からしか見ていなかったイベントがたくさんの人々の舞台裏の努力で実現していることに気づいたり、ボランティア活動は活動を継続的に行うという責任が生じ、厳しい自己管理を必要とすること、ボランティア活動で先輩ボランティアが温かく仲間として受け入れてくれたことや彼らの知識や技術の豊さや活動に向かう姿勢から学んだこと、留学生の支援では自分の英語力の弱さに気づき、あらためて今後の勉強の必要性に気づく一方、コミュニケーションを成り立たせるためには英語力以上に大切なことがあることに気づいたり、留学生支援で配慮されるべきことについての提案など様々な気づきと学びがあったことが報告されています。私たちはあらためてボランティア活動体験の教育的な意義を確認することができました。

また、学生たちのボランティア活動は受け入れ先から感謝され、学生への評価も高く、とくに、先輩ボランティアの方たちからは歓迎され、学生と一緒に活動することを喜んでいただきました。報告会の報告や報告書についても指導の結果でもありますが、私たちの予想以上に学生たちの報告はよく整理されたもので、ボランティア活動で学んだことがよく伝わる報告が行われました。学生たちがボランティア活動の体験で得たことが大きかったことは、この授業終了後も履修を機会に始めたボランティア活動を継続している者が少なくないことが示しています。

１年目の授業を終えて、来年度に向けたいくつかの課題もあります。まず、報告会は、受け入れ先の施設・団体の方にも参加をお願いし、学生の活動体験についてご意見や助言をいただけるようにすることや本学の学生ボランティア相談室とも連携し、学生がボランティア活動について学んだ成果を共有することなどです。

学生を快く受け入れ、御指導いただいた施設・団体の皆様には心から感謝申し上げます。また、学内では渡日時ボランティアとしての受入れや海外ボランティアの紹介など多大なご支援をいただいた本学国際本部の皆様のご協力に対して御礼を述べたいと思います。

１．　授業概要

新渡戸カレッジ特別教育プログラムにおける科目の位置づけ

授業科目	目標	単位	備考
留学支援英語	グローバルなコミュニケーションとしての英語力の育成	２	４単位以上
フィールド型演習	チームワーク力、リーダーシップの育成	２	２単位以上
多文化交流科目等、異文化理解促進科目	多文化状況の中での問題解決力の育成	２	２単位以上
国際交流科目 英語による学部専門科目 日本文化・社会に関する理解増進科目	グローバルなコミュニケーションツールとしての英語力の育成	２ １又は２ ２	４単位以上
新渡戸学 **ボランティア** インターンシップ	**世界の中での日本人としての自覚の涵養とキャリア形成**	**１又は２**	**２単位以上（新渡戸学１単位は必須）**
海外留学	グローバルなコミュニケーションツールとしての英語力の育成	１又は２	１単位以上
合計			15 単位

ボランティアは新渡戸カレッジ独自の科目である。

科目責任者	木村純　（北海道大学高等教育推進機構高等教育研究部　特任教授）
学期・定員	通年・50 人
ボランティア	ボランティアは、地域社会で自己の追及すべき課題を明確にするとともに、責任をもって活動することの重要性を認識することを目的とする。単位数は、実習をする時間数により異なる。実習 30 時間以上で１単位、実習 60 時間以上で２単位とする。

（『新渡戸カレッジ　履修の手引き』より抜粋 ）

２． 年間行事

１学期

月	日	スケジュール
4	11（金）	オリエンテーション　１回目
	18（金）	オリエンテーション　２回目
	25（金）	講義１
5	2（金）	講義２
	16（金）	講義３ 個別面談
	23(金)	渡日時留学生サポーター 概要説明
6	30(金)	個別面談
	13(金)	個別面談
	20(金)	補講
7	上旬～	参加先の決定・通知

２学期

月	日	スケジュール
9	26（金）	体験報告会　１回目
10	3（金）	講義１
	17（金）	講義２
	24（金）	講義３
	31（金）	個別面談
11	7（金）	個別面談
	14（金）	講義４
	21（金）	体験報告会の事前打合せ
	25（火）～ 27（木）	必要に応じて個別相談
	28（金）	講義５
	5（金）	体験報告会　２回目
	12（金）	講義６
1	23(金)	体験報告会の事前打合せ
	29(木)	体験報告会　３回目
2	13（金）	体験報告会の事前打合せ
	16（月）～ 18（水）	必要に応じて個別相談
	27（金）	体験報告会　４回目

３． 履修状況

履修完了者数

年度	履修完了者数
2014 年度	22 名

学生の基本情報

学年	カレッジ学年	男性	女性	計
１年生	2014-１年生	3	8	11
２年生	2013-２年生	3	3	6
	2014-２年生	4	1	5
計		10	12	22

学部別

学部	人数
総合文系	0
総合理系	4
文学部	2
法学部	2
経済学部	0
医学部	2
歯学部	1
獣医学部	0
水産学部	1
理学部	3
薬学部	1
農学部	1
工学部	4
不明	1
計	22

取得単位数

取得単位数	人数
１単位	15
２単位	7

取得単位数（学年ごとの人数）

学年	１単位	２単位	合計
１年生	9	2	11
２年生	6	5	11
合計	15	7	22

４．　集計結果

(1)全体の集計結果

参加先の数	人数
１か所	15
２か所	7
計	22

主な活動時期（重複あり）	延べ人数
１学期中　４～７月	5
夏休み中　８～９月	19
２学期中　10～11 月	7
冬休み中　12～１月	7
春休み中　２～３月	3

活動期間の長さ（重複あり）	延べ人数
１カ月未満	18
1～２カ月未満	5
２～３ヵ月未満	4
３～４か月未満	1
４～５か月未満	1
５～６カ月未満	3
６カ月以上	4

※「活動期間」とは、体験実習の開始日から終了日までの期間である。

活動日数（学生ごと）	人数
７日間未満	3
７日間～14 日間未満	11
14 日間～28 日間未満	8
合計	22

活動時間（学生ごと）	人数
30 時間以上	15
60 時間以上	7
合計	22

主な活動場所（重複あり）

地域	延べ人数	地域	延べ人数
札幌市内	16	ヨーロッパ	2
北海道内	3	インドネシア	1
道外	1	合計	24

(2) 取得単位ごとの集計結果

１． ２単位取得者の特徴

２単位取得者は、22 名中７名だった。７名中３名が海外短期ボランティアに参加した。具体的な内容は、海外では、家の建築(インドネシア)、沼地の再生(フランス)、道路作り(ドイツ)、国内では、北海道開拓の村のガイド(３名)、よさこいソーラン祭りの企画・運営(１名)だった。７名中５名(理系４名、文系１名)が２年生だった(表３)。７名は、１～２カ月間かけて定期的にボランティアを行う学生や、夏期休業を利用して海外で２～３週間集中的にボランティアをしていた。海外でボランティア活動を行った人は、全員ＣＩＥＥ(国際教育交換協議会)の「海外短期ボランティア」プログラムを利用していた。ボランティアの時期は、１名が４～５月、６名が８月～９月だったことから、夏期休業中に集中していた(表５)。国内で活動した４名のうち、１名は、以前からボランティア活動に関わっていたことから活動開始時期が早く、活動時間を十分にとることができたと考えられる。残る３名は全員、北海道開拓の村ガイトに参加していた。短期間でまとまった時間を確保できる参加先とのマッチングができたことにより短期間で集中的にボランティアに参加することができたと考えられる。

表１．性別と学年

性別	１年	２年	合計
男子	1	3	4
女子	1	2	3
合計	2	5	7

表２．性別とカレッジ学年

性別	2013 年-SS	2014-1FR	2014-2FR	合計
男子	0	1	3	4
女子	2	1	0	3
合計	2	2	3	7

表３．学生別

性別	学年	入学年	カレッジ学年	所属	時間	日数	期間※（月数）	単位
男	1	2014	2014-1ＦＲ	総合理系	60	10	2	2
男	2	2014	2014-2ＦＲ	法学部	84	15	1	2
男	2	2014	2014-2ＦＲ	理学部	120	20	1	2
男	2	2014	2014-2ＦＲ	理学部	65	10	2	2
女	1	2014	2014-1FR	文学部	60	10	1	2
女	2	2013	2013-1ＳＳ	水産学部	72	17	2	2
女	2	2013	2013-1ＳＳ	工学部	65	8	1	2

※「期間」は、実習開始から終了までにかかった期間である。

表４．活動内容別

活動内容	人数
海外ボランティア	3
博物館ボランティア	3
まちづくり	1
合計	7

表５．活動が集中した時期

時期（重複あり）	人数
４月～５月	1
７月～９月	6
９月～10 月	5

２．　１単位取得者の特徴

１単位取得者は、22 名中 15 名だった。15 名中９名が１年、６名が２年生で、１年生が全体の６割を占めた。15 名中９名が女子で６割を占めた。文系は２名で２名とも女子だった（表 6）。

活動が開始された時期を学期ごとにみてみると、述べ人数で１学期 12 名、２学期３名で、１学期中に活動を開始した人が２学期中に開始した人よりも多かった（表 10）。１学期中に活動を開始した 12 名のうち、１学期中に活動を終了できたものは６名だった（表 10、表 11）。実習期間の長さは、２カ月以下が５名、３カ月以上が 10 名だった（表 12）。活動が集中した月をみると、８月が９名で最も多く、次いで 12 月が８名、９、10、11 月が７名だった（表 13）。このことから、活動のペースは、１学期から２学期にかけて、ゆっくりと展開されていたことがわかる。

表６．　性別と学年

性別	１年	２年	合計
男子	2	4	6
女子	7	2	9
合計	9	6	15

表７．　性別とカレッジ学年

性別	2013 年-SS	2014-1FR	2014-2FR	合計
男子	3	2	1	6
女子	1	7	1	9
合計	4	9	2	15

表８．　学生別

性別	学年	入学年	カレッジ学年	所属	時間	日数	期間※（月数）	単位
女	1	2014	2014-1ＦＲ	総合理系	40	20	5	1
女	1	2014	2014-1ＦＲ	文学部	42	19	5	1
女	1	2014	2014-1ＦＲ	総合理系	30	5	2	1
女	1	2014	2014-1ＦＲ	総合理系	54	9	1	1
女	1	2014	2014-1ＦＲ	医学部	48	8	1	1
女	1	2014	2014-1ＦＲ	薬学部	35	6	3	1
女	1	2014	2014-1ＦＲ	農学部	33	15	7	1
女	2	2013	2013-1ＳＳ	法学部	30	12	4	1
女	2	2014	2014-2ＦＲ	工学部	40	21	7	1
男	1	2014	2014-1ＦＲ	不明	31	14	6	1
男	1	2014	2014-1ＦＲ	医学部	35	9	3	1
男	2	2013	2013-1ＳＳ	工学部	30	6	6	1
男	2	2014	2014-2ＦＲ	工学部	33	13	1	1
男	2	2013	2013-1ＳＳ	理学部	36	12	5	1
男	2	2013	2013-1ＳＳ	工学部	42	7	1	1

※「期間」は、実習開始から終了までにかかった期間である。

表９．　活動内容別

活動内容（重複あり）	延べ人数
子どもの学習支援	6
まちづくり(ホーレス支援、イベント運営支援、国際交流支援)	6
高齢者福祉	4
留学支援	3
病院ボランティア	1
障がい者支援	1
博物館ボランティア(図書館含む)	1

表 10.　活動が開始された時期（学期ごと）

開始時期	人数
１学期中（４月～９月）	12
２学期中（１０月～２月）	3
合計	15

表 11.　実習の終了時期

終了時期	人数
１学期中	6
２学期中	9
合計	15

表 12.　活動期間の長さ

月数	人数
１カ月	4
２カ月	1
３ヵ月	2
４カ月	1
５カ月	3
６カ月	2
７カ月	2
合計	15

表 13.　活動が集中した月

月ごとの内訳（重複あり）	延べ人数
４月	1
５月	0
６月	3
７月	3
８月	9
９月	7
10 月	7
11 月	7
12 月	8
１月	1
２月	1
３月	1

考察

２単位取得者７名のうち、夏期休業を利用して短期集中型の海外ボランティアを行った人が３人、すでに自分で探したボランティア活動を行っていた人が１人いた。海外ボランティアでは、業者が提供しているまとまったプログラムが用意されていたことや、すでにボランティア活動をしていたことが有利に働いたことがわかる。一方、１単位取得者の場合、活動のペースは、15 名中６名が１学期から２学期にかけて、数時間ずつ定期的にボランティア先に通うなど、ゆっくりと展開されていた。このことから、夏期休業を有効に利用できたか否かや、実習認定期間からすぐに開始できる準備ができていたか否かが単位数の差に影響を与えたと考えられる。

今回のボランティア体験実習をきっかけに活動をそのまま継続した学生もいた。22 名中、ボランティア活動をその後も継続している学生は、開講以前からすでに自分で探してボランティア活動を開始していた学生２名を除き、２名だった。また、22 名中９名が所定の単位取得要件となっている 30 時間をはるかに超えてボランティア活動に参加していた。以上のことから、ボランティア体験実習が、参加者に肯定的な印象を与えていたことがうかがえる。

５． 学生が参加したボランティアの種類

ボランティアの種類(重複あり)	人数
高齢者福祉	4
子どもの学習支援、子ども福祉	7
博物館（動物園、開拓の村含む）・図書館	3
まちづくりや関連するイベント	4
病院ボランティア、ホームレス支援、障がい者支援	3
国際ボランティア（留学支援含む）	6
海外ボランティア	3
その他	0

学生が参加したボランティア先 一覧（学生の体験報告票から転記） （重複あり）

参加先		ボランティアの種類
社会福祉法人　ノマド福祉会　デイサービスセンターはる　北１７条	北１７条西３丁目２－１　ウィステリア　N17 １Ｆ	高齢者福祉
さっぽろ・まなトピア	札幌市南区民センター 札幌市南区真駒内幸町２丁目２-１	子どもの学習支援
	麻生団地集会所内 札幌市北区麻生町４丁目１	
	東区民センター 札幌市東区北11条東７-１-１	
	厚別区民センター 厚別中央１条５丁目３-14	
NPO 法人 Kacotam	エルプラザ(北区北８条西３丁目)	
	こども学舎(西区琴似２条３丁目１-３　テーオービルテーオーハイツ３Ｆ	
北海道開拓の村	北海道札幌市厚別区厚別町小野幌 50-1	博物館（動物園、開拓の村含む）・図書館
札幌市立中央図書館読み聞かせの会　ねこやなぎ	札幌市立中央図書館 札幌市中央区南 22 条西 13 丁目１番１号	
札幌駅前通まちづくり株式会社	北海道札幌市中央区北２条西３丁目 Sapporo Flower Carpet 2014	まちづくりや関連するイベント
YOSAKOI ソーラン祭り学生実行委員会	札幌市中央区南８条西２丁目５-７-４ 市民活動プラザ星園３０３号室	
2014 ふれあい広場くりやま（くりやまカルチャープラザEki）	北海道夕張郡栗山町中央２丁目１番地(主催栗山町社会福祉審議会)	
北海道大学病院	札幌市北区北 14 条西５丁目	病院ボランティア

北海道の労働と福祉を考える会	「札幌エルプラザ」札幌市北区北８条西３丁目２Ｆ事務ブース：北海道の労働と福祉を考える会	ホームレス支援
社会福祉法人豊芯会	豊島区大塚３－34－７豊芯ビル２階 豊島区東池袋１－20－15 生活産業プラザ２階	障がい者福祉
留学生サポーター	北海道大学国際本部国際支援課	国際ボランティア
札幌国際プラザ	札幌国際プラザ外国語ボランティアネットワーク	
国際教育交換協議会(CIEE)日本代表部	ドイツ　Raubling　　環境保護	海外ボランティア
	スマトラ島　メダン市　家屋の建築	
	フランス　Choppus　道路の構築	

６．　活動内容

ボランティアの種類（重複あり）	主な活動内容
高齢者福祉	利用者の方々とのコミュニケーション、レクリエーションの手伝いをする。
子どもの学習支援	Kacotam で、小中高生の勉強をサポートする。
	Kacotam やまなトピアで、小中高生の勉強をサポートする。
	札幌市母子寡婦福祉連合会主催の事業（さっぽろ・まなトピア）でひとり親家庭の子どもたちに勉強を教える。
ホームレス支援	路上生活者の夜回り、炊き出し。
まちづくりや関連するイベント	2014 ふれあい広場くりやま（くりやまカルチャープラザEki）で、椅子、テーブル等の設置、出店の出店準備、イベントの片づけをする。
	yosakoi ソーラン祭りの企画・運営。
	サッポロフラワーカーペット 2014 でフラワーカーペットを展示する作品の作成。
博物館ボランティア	野外博物館北海道開拓の村で、村内農村部・漁村部・旧青山家漁家住宅・市街部来正旅館での解説　総合案内・イベント運営
	札幌市立中央図書館読み聞かせの会　ねこやなぎ
病院ボランティア	北海道大学病院で、マスコット作り。
障がい者支援	社会福祉法人豊芯会のカフェふれあいでの接客、フードサービス事業所でのおせち作り。
留学支援	渡日する留学生の空港での出迎え、寮への送迎、行政機関での書類手続きの補助など。
海外ボランティア	ドイツ（Raubling）で、再生しつつある沼地において、歩道の整備、不要な木々の除去、フェンスの設置など。
	フランス（chouppes）で野鳥観察のための道づくり。
	インドネシア（スマトラ島、メダン市）で家を建てる

主な活動内容	具体的な内容（体験報告票より抜粋）
花絵の制作（フラワーカッペット）	・バラの花を解体する。 ・花絵の完成図を元に、各色のバラの花びらやカラーサンドを敷き、のりで固定する。
読み聞かせ	絵本の読み聞かせ イベント運営の手伝い
路上生活者の夜回り、炊き出し	札幌駅周辺の夜回り、路上生活者向けの炊き出し
渡日時留学生サポーター	新規渡日する留学生ＡさんとＢさんを空港で出迎えて寮へ案内した。その翌日に区役所や郵便局、大学での手続きを行った。
椅子、テーブル等の設置、出店の出店準備、イベントの片づけ	前日：椅子、テーブル等の設置。パネルの設置。ポスター張り 当日：受付、抽選会の補助、後片付け
再生しつつある沼地において、 ・歩道の整備 ・不要な木々の除去 ・フェンスの設置など	・歩道の整備 （観光客が歩きやすくするために、土の上に小石をまいた） ・小さな橋の建設 （小さな川の浅瀬に土を埋めて、その上に丸太をのせて、最後に周りの歩道と同様小石をまいた） ・不要な木の伐採 ・沼周辺への植林 ・木で作られたベンチ周辺の整備 ・展望台へ通じる渡り場の作成 ・料理、掃除当番
yosakoi ソーラン祭りの企画・運営	・大通南北パレード会場の運営方法の考案 ・物品の準備 ・西８丁目メインステージにおける観客対応 ・四番街会場の運営 ・大通南北パレード会場で活動するボランティアの管理 例）ボランティアへのメール連絡、シフトの管理、欠席者の対応、スタッフの食事の手配 ・来年に向けた運営方法の見直し、振り返り
利用者の方々とのコミュニケーション中心	利用者の方々とお話し、オセロ、トランプ 昼食の時やおやつの時間の用意の手伝い 体操の時間にタオルやボール等を配る リクリエーションの手伝い
利用者の方々の話し相手をすること、レクリエーションの手伝いをすること	利用者の方々の話し相手。ラジオ体操の手本。食事やおしぼり、また体操に用いるボール等の配布の手伝い。ちぎり絵やカルタに参加。利用者の方々と一緒に、軽い体操やストレッチ等。レクリエーションの補助。合唱。8 月 22 日はコンサートがあったため、利用者の方々の移動補助。
他のボンランティアの方々の同様の活動をする	施設の紹介、ボランティア内容の確認。田村家　養蚕。来正旅館接客。小樽新聞社　手フート印刷。青山家　接客。小樽新聞社　名刺作成。午前研修、午後総合案内。総合案内、のし花作り。
野鳥観察のための道づくり	チェーンソーやブランチカッターを用いて森林を切り開いた。また、鍬などを使い切った草木を運んだ。

渡日する留学生の出迎え及び渡日直後の手続き補助	新千歳空港への留学生出迎え ホテルまたは寮への案内、入寮手続き 区役所への案内、転入届　国民健康保険加入　手続き書類の記入代行(漢字部分)及び手続き補助 郵便局へ案内　転居届提出 銀行口座開設の手伝い 簡単な通訳 大学の案内
海外から来た人に日本文化を体験してもらいながら交流する「おもてなしウィーク」運営の手伝い	雪祭り期間中、海外から来ている人に日本文化を体験してもらうイベント「おもてなしウィーク 2015」で、札幌国際プラザ外国語ボランティアネットワークの方々に教えていただきながら、主に折り紙や書道を担当し、一緒にやりながら説明した。
フランスからの留学生の各種手続き。中国人留学生の出迎え、案内。韓国人留学生の出迎え、各種手続き	住民票写しの取得、銀行口座の開設の手伝い。北海道大学の中での図書館のサービスや郵便局での手続きの手伝い。　空港出迎え、函館行き列車までの案内　空港出迎え、寮までの案内、寮での手続きの手伝い、担当外の留学生の忘れ物を空港、ＪＲで引き取り
渡日する留学生の空港での出迎え、寮への送迎、行政機関での書類手続きの補助など	空港への出迎え、寮への案内・手続き、区役所での手続き、郵便局・銀行での手続き、大学案内、国際本部での手続き、市内主要施設の案内、携帯電話の契約補助。
村内農村部・漁村部旧青山家漁家住宅・市街部来正旅館での解説　総合案内・イベント運営	長年にわたって開拓の村での活動に携わっていらっしゃるボランティアさんの方々から、村内全体の建築物の解説などのお話を聞きながら、青山家漁家住宅でのお客さんへの接待や、来正旅館での販売業務のお手伝いをしました。開拓の村は外国人の方の訪問も多く、英語で解説を行うこともしばしばでした。また、私がボランティアを務めさせていただいた時期は、「秋のふるさと祭り」と「漁村のむらびとのくらし」の 2 つのイベントが開催される時期で、私も漁村での仕事唄に加わらせていただくなど、通常の業務も行いながら、イベントの様子も見させていただきました。業務後半では、ガイドツアーに付き添って、村内全体を案内する際のノウハウを学ぶと同時に、私自身もツアー参力者とお話ししてその雰囲気を見させていただきました。
小中高生の勉強をサポートする	1 対 1、または 1 対 2 で子どもが持参した教材での自習サポートを行った。主に学校の宿題であった。子どもが自習を進めていてつまってしまったら、例題を作ってみて解かせた。また、英語の be 動詞等の基本的な点が抜けてしまっていたら、その場でルーズリーフにまとめながら説明し、それを残った時間(最後の 10 分くらい)で白紙のルーズリーフに何回も写させてみた。 活動の後は基本的に 30 分程度のミーティングがあり、そこで引き続きシートを書き、それぞれ担当した子どもも様子について話した。

子どもたちの学校の宿題や塾の宿題の手助けをする	子どもたちが自習している様子を見て回り、わからないところがあるかどうか確認する。質問を受けた時に対応する。対象は小学３年生から中学３年生に及ぶ。小学生に対しては、折り紙などを使用して説明することもある。中央区には教材がそろっており、子どもたちの苦手としているところを集中的に練習させてあげることもできる。小学生に対して漢字を教えるときには、辞書の使い方の説明から行うこともあった。問題を作ってほしいと頼まれることもあった。
小中学生の勉強をサポートする。	日によって子どもの人数も来る子も異なったため、１対１で教えることもあれば１対２や１対３になることもあった。 指導内容は子どもが持参した教材での自習のサポートで、主に学校・塾の宿題や通信教育のテキストであった。子どもが自習を進め、つまってしまった部分があれば、声をかけて、その部分を説明する。あまりにわからない場合は簡単な例題等を作って解かせてみるなどした。「話し相手が欲しい」という気分の子とは、ただおしゃべりをしただけの日もあった。
ひとり親家庭の子どもたちに勉強を教える	子どもたちが持ってきた教材、問題集や学校の宿題のわからないところを一緒に解く。学習支援なので、こっちから何かを教えるというよりは、子どもが学ぶのを手伝うようなスタンス。教室内を見て回り、手が止まっている子どもがいたら、声をかけ、一緒にその問題について考える。
フラワーカーペットにて展示する作品の作成	最初に、参加者をいくつかのグループに分け、そのグループ単位で活動を行った。午前中は、作品を作るのに必要な材料、花びらをバラから取る作業を行った。午後は、地下に入り、そこにあった大きな画用紙の上に、モデルの写真を見ながら素材の花びらや砂を、それぞれのりを使って配置していき、最後に周りを飾って完成させる。
家を建てる	・基礎を作り ・セメントを練る ・レンガブロック、セメントを運ぶ ・柱を作る ・トイレを作る ・レンガブロックを積む
マスコット作り	マスコット作り補助
ひとり親家庭の児童に対する学習支援	小３から中３までの児童に対して、各自が持参してきた教材（学校の宿題や入試対策教材などの問題集）をもとに勉強を教えた。指導した教材は国・数・英・理・社の５教科にわたり幅広く子どもたちと接する機会も同時に得ることができた。また、昨年の秋頃から不登校になっている中３男子生徒の指導をまかされ、学年を下って小学校の学習内容から教えるなど本人のニーズに合わせた学習支援を行っている。

カフェふれあいでの接客、フードサービス事業所でのおせち作り	障害者へのボランティア活動を行っている学生が少なく、障害者への理解も遅れているように思います。もっと障害者への理解を進めるために何かできることはないのでしょうか？難しいとは思いますが、検討していただきたいです。
路上生活者の自立支援活動	炊き出し…会場設営等、夜回り…路上生活者のいるところを巡り歩く、炊き出し(みなずき会にて)…会場設営・料理手伝い等，冬の人数調査…路上生活者の寝床を回り人数や場所を記録する、炊き出し…会場設営等

7． 学んだこと、気が付いたこと

活動内容	学んだこと気が付いたこと
まちづくり	・ボランティアには地域の人々が数多く参加しており、幅広い年代の人々と交流できた。 ・花絵の制作という１つの目標に向かって、その日に初めて会った人と会話協力できた。 ・当日は天気がよく、日差しが強かったので、長時間炎天下で働くのが大変だった。ボランティアで参加する以上、自分で準備できるもの（日よけ、飲み物など）は用意するなど、自己管理をしっかり行わなければならないと感じた。同時に、仕事のように義務・強制ではなく、できる範囲の仕事を自主的に行うボランティアという活動の素晴らしさを実感した。 ・ボランティアに参加する側も大変だったと思うが、ボランティアに指示を出す運営の方々の仕事も大変だと思った。運営の方々のおかげで作業がスムーズに行えたので、ボランティアだけでなく、企画・運営も重要なのだと学ぶことができた。 ・完成した花絵は素晴らしく、通りかかった人々が花絵を見て喜んで見ることができたので、とても達成感があった。作業は大変だったが、自分の努力が確かに形となって人々の役に立っていたり、人々に喜んでもらえたりしてうれしかった。また参加してみたいと感じた。
児童福祉	・絵本の読み聞かせの難しさや奥深さを学ぶことができた。ボランティアの先輩から読み方の技術的な指導をしていただき、絵本の見せ方、選び方なども教わって、とても勉強になった。 ・読み聞かせの会場が読み聞かせに来る子ども同士のつながりや、保護者の方々のつながりを作る場になっていることがわかった。 ・ボランティアの先輩方が、ほかにもいろいろなボランティアに参加していて、たくさんお話をしてくださりとても勉強になった。視野が広がった。 ・子どもや絵本が大好きな方がボランティアに参加しており、それぞれの方々が一生懸命活動しているのを見て、ボランティアの必要性を感じた。 ・読み聞かせの技術的な面でも、社交性や考え方の面でも、自分はまだまだ成長が必要だと感じた。
国際ボランティア	日常では見えない、社会から切り離された環境で生きる人々の生活や、性格、傾向や制度的な問題について知ることができました。また、それに関連した労働状況や福祉制度に関しての知識を学びました。

国際ボランティア	渡日時留学生サポーターでの活動を通じて、自分の英語力がどの程度かを認識することができた。留学生がゆっくり話してくれないと聞かれていることを理解できないことや、自分の伝えたいことが上手く伝えられなくてくやしかった。自分が留学するためにももっと英語を勉強し、使いこなせるようになるべきだと感じた。また、外国に住む際にはさまざまな手続きが必要だということを事前に知ることができてよかった。
まちづくり	私が小さい頃から行われているお祭りだが、運営する側の立場に立ってみて、このお祭りがたくさんの人の協力によって成り立っているということがわっかた。そして、町民の健康意識を高めたり、普段は会う機会がない人との交流の場になっていたりするところが、とてもよい点だと思った。自分の仕事に関しては、何をしたらよいかわからず、指示を待ってしまうことがほとんどだった。ボランティアは進んで行うことが重要だと思うので、この点が難しかった。
環境保護(海外)	地域の人しか知らないような沼でのボランティア活動であったが、毎日のように地域の人が観光に訪れたことから、地域の人にとっては大切な沼であるということがわかった。ある人は、「昔はあまり来なかったが、最近はよく来る」と話しており、近年のボランティア活動によって沼が再生されつつあることについて、地域の人も関心を抱いていると感じた。さらに、活動中、ラジオ局が取材に来たり、市長が訪れたりなど、私が参加したボランティア活動に対する関心は、地域にとどまらないようであった。 今回、様々な国から来た16人がボランティア活動に参加した。内訳は、韓国・台湾・ロシア・フランスから1人ずつ、日本・スペイン・トルコ・チェコから2人ずつ、ドイツから4人だった。意思疎通を図るため、みな英語を用いたが、日本人以外、みな英語が堪能であった。ヨーロッパの若者は、英語が話せて当然らしい。これには驚いたが、これから英語の勉強に励む良い刺激となった。
まちづくり	私自身ｙｏｓａｋｏｉソーラン祭りに関わるのは2年目で、また学生実行委員会においても2年生という、後輩を引っ張っていく立場でもあり、また人事(ボランティア対応)という責任のある立場でもありました。にもかかわらず、事前準備が万全でなかったため当日混乱があったり、準備の段階で上手く他のメンバーと協力できなかったりと、上手く行かないことが非常に多かったです。ｙｏｓａｋｏｉソーラン祭りに携わって学んだ一番大きなことは、責任を持つこと、そのために自分に何ができて何ができないのかを認識すること。また、ほかのメンバーを信頼し、協力すること。このことは当たり前ですが、いざ自分のことになると周りが見えなくなって、できていなかったと感じています。
高齢者福祉	・お話しするときは、声の大きさやスピード、話題など相手に合わせて話すようにする。 ・その人の症状に合わせていろいろなものが管理されている。薬を飲む人や食事制限のある人もいるから配膳の時はよく気を付けなければならない。 ・利用者の方々はいろんな人がいて、力仕事があったり、気配りなども必要で介護するということは大変だと思ったが、高齢者の方々を支える非常に大切な仕事だとよくわかった。
博物館	様々な活動をさせていただきありがとうございました。大学では決して学べない経験ができました。

博物館ボランティア	はじめは、自分よりもはるかに年上の方々と接するのだから敬意を示さなくてはと緊張していた。しかし実際に会話をしてみると、とても気さくな方が多く、逆に敬語を使いすぎると聞き取りにくくなるため、適度の敬語で充分であると学んだ。職員の方々は敬語を使わずに会話のテンポを重視しているように見える場面もあり、コミュニケーションの取り方として勉強になった。会話は「聞き手」になるイメージが強かったのだが、私自身の学生生活に興味を持って質問してくれる方もいた。「若い人が来てくれると嬉しい」とよく言われたので、若者がもっと高齢者とかかわる機会を持つべきではないかと感じた。また、老人ホームに入りたいけど金銭的に厳しい」や、「先行きが不安だ。安心したい」といった、高齢者の悩みの声も直接聞いて、日本の抱える高齢者の問題がより身近なものに感じられるようになった。
博物館ボランティア	・北海道出身者には目からウロコが落ちるようなことを多く学べた。 ・ボランティアの方々は元北大の方や中学校が私と同じ人がいらっしゃった。 ・北大にまつわる展示物も有島武郎邸を始め、多く存在していた。 ・外国人観光客が多かった、ほとんどの外国人観光客は「靴を脱いでお入りください」のマークを「立ち入り禁止」と勘違いしていた。 ・どのように英語を話せば伝わりやすいが学べた。
環境保護(海外)	国が異なるとやはり働くリズムなども異なることを感じた。と同時に地元の人々はとても優しくこういうことも大切であると感じた。また、実際に肉体を使用して働くことの大変さを学んだ。今までチェーンソーを使用したことはなかったが、思ったよりも重く、木を切ることは危険な作業であった。実際、数か所とげなどによって怪我をしたり、虫刺されなども多かった。それでも実際に結果を自身の眼で見ることができ、達成感を得ることができた。 コミュニケーションツールとしての言語の大切さを実感した。やはり外国に行く際にはある程度、英語の他にその国の言語を学んだ方が楽しく過ごせると思う。
国際ボランティア	無償ボランティア、有償ボランティアの違いは、活動中それほど大きく感じる場面はあまりなかったが、無償時に市内交通費も支給されないため、なるべく交通費を使わないように行動しようという気持ちが強くなった。今回、二人の留学生を担当し、一人はほとんど日本語が話せず、もう一人はとても日本語が上手だったことほうが自分にとっては大きな違いで、英語で話すとなると、またまだスムーズにコミュニケーションをとるのが難しく、手続きに関連しそうな単語や表現などもっと幅広く調べておけばよかったと感じた。
国際ボランティア	折り紙の折り方で難しい部分や、書道の止めハネなどを英語で説明するのが、いい表現が思いつかず難しかった。日本文化を伝えるにあたり、全く知らないことや、よくわかっていない側面も多く、しっかり理解してもらうためにはもっと自分自身、日本のことについて学んでおかなければいけないと感じた。
国際ボランティア	・言葉が通じなくてもなんとか頑張ればいけること。 ・留学生の頭の良さ・事前の準備が大切であること。 ・自分の語学力の無さ・相手の立場や考えを意識すること。 ・飛行機の到着予定時刻の信用のなさ。 ・トラブルが起きた時は焦らないのが一番であること。 ・外国人サポーターの頼もしさ。

国際ボランティア	今回の実習では、有償ボランティアと無償のボランティアの２種類を実施した。自身の興味の方向が金銭ではなかったため、特に実施内容に対する心持ちや、実習内容の密度の差などはなかった。実際に業務を行って気づいたこととしては、寮と国際本部を除き、各種行政機関では、職員の英語による十分な説明を行い得るところが少なく、（寮でも職員によっては不充分な説明であった。）サポーターがいなければ各種手続きは困難であろうと感じた。しかし、英語の書類や説明文などはところどころ存在し、一定の配慮は見受けられた。 留学生の交流を通して、文化などの違いから日本では達成しがたい要望などもあり（野菜洗浄用の洗剤の購入）、留学生のすべての要望に沿うことはできなかった。しかし、同じ寮での留学生同士の情報交換などもあり、共通文化圏の留学生同士で問題に対処していたのでサポーターとしてある程度までの補助で十分であると感じた。
博物館ボランティア	開拓の村では、ボランティアの多くがご年配の方で、私のように大学生で業務に携わる人も少ないですが、皆さん丁寧に開拓の村の建物にまつわるお話を教えてくださっただけでなく、気さくに雑談してくださるなど、長年ここで解説を務めていらっしゃる方の優しさに触れることができました。私は大学において人に何かを教える機会はあまりないのですが、先輩のボランティアさんに丁寧に教えていただいたおかげで、来ていただいたお客さんに楽しく、かつ丁寧に村内の解説をするコツをつかむことができたのが最も大きな成果だと思います。また同時に、村内に残されている建物を保存することは非常に大変であることを聞かされて、資料保存の限界と難しさを学びました。しかし、それを見て懐かしさを感じる多くのお客さんの姿を見て、それを保存し、過去の北海道の姿、あるいは人々の暮らしを発信していくことが、ある文化を継承していく一つの方法になることを知りました。最後に、外国のお客さんも多かったので、日本の文化を教えていく方法として、近代的な開拓の歴史から、それを伝えた国との類似性を実感するという手法もあることがわかったこともこの10日間での成果だと思っています。
子どもの学習支援	１）若者中心だからか活気がある雰囲気だった。他団体との協力や勉強会に積極的。たとえば、毎月のように貧困に関する勉強会を(時に外部に方を招いて)行う。それだけでなく、大学生が自分の研究について、子どもに面白いと思えるように発表したり。また、他の団体との協力で驚いたのが、SEA(海外大学進学の塾)との協力だ。１～２人に無料で、SEAが海外大学進学コースを提供するとのこと。このように動けるのは、組織が若いためしがらみが少ないからかもしれない。 ２）“やる気スイッチ”のように、子どもごとに、それぞれやる気を出すポイントがあることがわかった。たとえば、ある男の子は以前がふざけてうるさかったのに、先生が丸つけをするようになったら、授業が始まる前からと１人で勉強するようになった。コメントにもいつも「丸つけしてくれてありがとう」と、あるそうなので、彼は「先生が横でみていてくれて、丸つけをしてくれる」がポイントらしい。
子どもの学習支援	１）子どもの最近の流行。私の頃はポケモンが流行していたが、今の子どもは妖怪ウォッチが流行っているらしい等々。子どもと話す中で様々な話を聞くことができた。 ２）子どもとの接し方。中学校入学以降、子どもと接する機会があまりなかったので、最初はおっかなびっくりだった。しかし、回数を重ねるうちに仲良くなれるようある程度慣れ慣れしく（？）できるようになり始めた。子どもとの共通の話題として、アニメや猫について私は多少詳しいので、それらが好きな子とは、そういったトピックを駆使して仲良くなったりした。

	３）親の賢さの重要性。活動に取り組んでいると、マナーや礼儀がなっていない親の話を聞くこともあった。私自身が恥ずかしい限りだが、私の母は礼儀等がしっかりした人で、収入は少なくても十分な暮らしができた。親がしっかりしていれば、収入は少なくても悲惨な生活にはなりにくそうだ。親の賢さは重要だと感じた。
子どもの学習支援	・やっている人が若い人が多かった。当初は、ボランティアは年配の人がやるものだと思っていた。 ・教えることは難しかった。自分が理解できる内容が他人も理解できるとは限らない。 ・ボランティアは積極性が大切、子どもたちは思っていたより貧しそうには見えなかった。
まちづくり	今回自分が配置されたグループに親しい人もおらず、年代も違ったので始まる前は少し不安でしたが、開き直ってみると意外と普通に話しながら作業ができました。また、知らない人とでも、大きな一つのものを完成させるのはとても楽しかったです。
環境保護(海外)	実際にボランティア活動をしてみて、様々なことを考えさせられました。まず、第１に、貧しさというものを目の当たりにし、人が生きていくうえで住居の重要性というものを考えさせられました。私たちが日頃生活している住居や施設の建物とは大きく異なり、屋根が雨もりをする、壁が風などを通すといったような簡易的な家に住んでいることに衝撃を覚えました。第２に、ボランティアをすることについてです。インドネシアは熱帯地域であるため、日中はとても暑く、外でのワークは大変体力的に辛かったです。人のために役に立つというモチベーションがありつつも、このような状況下でボランティアをする大変さを知りました。
病院ボランティア	病院内ということもあり様々な方がいたが、ボランティア活動によって、皆さんにこにこと笑顔を見せていた。ボランティアは自己満足でしかないかもしれないが、それによってボランティアをする人もそれによって助けられる人もどちらも笑顔になれるのであれば、素晴らしい活動であると思う。
子どもの学習支援	人生初のボランティア活動で、かつ子どもが相手の活動であったため当初は緊張したが、現在では、子どもたちとも打ち解けてライフワークの一部になっていると感じている。このまなトピアから私が学んだものは２つある。１つは初等教育の難しさの重要性である。子どもたちに勉強を教える中で初めに感じたことは、中高生に教えるよりも何も知らない小学生に一から教えることの方がはるかに労力が必要だということで、「どこがわからないのか？」ということを考えるのにとても苦労した。そして初等教育の理解度が今後の学習に大きな影響を与えることを痛感し、初等教育の重要性を再認識できた。２つ目は社会貢献である。私はまなトピアを通してわずかながら人の役に立っていることを実感することができ、社会貢献の機会は身の周りに多くあるということを学ぶことができた。
障がい者福祉	精神障がい者が障がい者手帳を持っているということで生活しにくくなる面もある。そうならないように自分ができることをこれから探していくべきである。
子どもの学習支援	母子家庭の子どもには、勉強をする場だけでなく、居場所も与えることができるような環境を作ることが大切である。
ホームレス支援	活動を重ねるにつれて段々と見えてきた路上生活者の生活・苦労は以前の自分であれば想像もつかないことばかりであり、支援を必要とする人と会話してその声を直接聞き、彼らの生活に寄り添うことが支援に不可欠であると学んだ。 また、路上生活者と真摯に向き合ってその声に臨機応変に対応する労福会の方々の姿勢は、大変勉強になった。自分も、何が必要とされていて何をすべきなのか適

	切に見極め、被支援者に寄り添って共に歩を進めることができるようになりたいと思う。
子どもの学習支援	・基本的なことほど、説明し、理解してもらうことは難しい。 ・相手がしてほしいと思っていることは、相手から伝えられることはまれで、積極的にコミュニケーションをとろうとすることが大切。 ・わからないことをあいまいにしてしまうと相手を不安にさせてしまうし、相手の今後の学習にも影響を及ぼしてしまうこともあるから、教えるということは大変な責任をともなうもの。
国際ボランティア	・英語の能力が足りな過ぎて迷惑をかけてしまった。 ・フィンランド人の学生をサポートしたが、フィンランドについての知識があったおかけで会話が弾んだ。相手について、ある程度の知識をつけておくことは礼儀として大切なのだと痛感した。 ・手続きの内容を調べたり、場所を確認するなどの、下調べを十分にしていなかったために、説明をうまくすることができなかったり、無駄な時間を過ごすことになってしまったりした。

８． ボランティア参加の動機や理由

ボランティア参加の動機や理由（実習計画書より抜粋）履修取消者の分も含む。

種類	実習の動機	実習目標
ホームレス支援	２年生から社会システムを専攻しようと考えており、ホームレスの方々と接することで今の社会に対する理解も深まるのではないかと思ったからです。	ボランティアをするということがどういうことか、その意義やスタンスを学びたいです。また、今の自分が困っている人たちのために何ができるのか考え、自分と社会について見直すいい機会にしたいと思います。
子どもの学習支援	私自身が物心つく前に父と死別していたので、同じく片親の子どもをサポートできたら良いなと考えていたから。また、現在の私と母の関係は良好とはいえず、他の片親家庭の人と接することで何かしらの心の整理を付ける助けになるかもしれないと考えたから。	・母とのことで悩まなくなること。 ・子どもと接することに慣れること。 ・子どもが勉強で落ちこぼれないようにサポートする工夫を身に付けること。
国際ボランティア	新渡戸カレッジ生として留学する準備として、外国の方とコミュニケーションしたかったから。	留学生とスムーズにコミュニケーションできるようになる。 自分が留学するときにどのような点に注意すればいいか考える。

国際ボランティア	・説明会で興味を抱いたから。 ・留学の参考とするため。 ・外国人と接する体験は大事だと思ったから。 ・このボランティアは前日に頼まれて、急なものであったから、やったほうがいいと思ったから。	・頼まれた目的を達成すること。 ・どうにかしてコミュニケーションをとること。 ・できるだけ留学生と気まずい関係を作らないようにすること。
国際ボランティア	・説明会で興味を抱いたから。 ・留学の参考とするため。 ・外国人と接する体験は大事だと思ったから。	・相手に自分の言いたいことをうまく伝わりやすくすること。 ・実際に体験して、どこが難しかったのかを理解すること。 ・できるだけ留学生と気まずい関係を作らないようにすること。
国際ボランティア	・説明会で興味を抱いたから。 ・留学の参考とするため。 ・外国人と接する体験は大事だと思ったから。 ・時間が空いていたから。	・時間を考えて行動すること。 ・できるだけ留学生のしたいことを手伝うこと。 ・できるだけ留学生を気まずい関係を作らないようにすること。
国際ボランティア	自身も短期留学を考えていて、日本に来る留学生を手伝いながら留学先での生活について学べると思ったから。	留学生が日本でどのような場面でサポートを必要としているのか、またそれは他の国ではどうか。
国際ボランティア	留学生サポーターを経験して、国際交流にかかわるボランティアに興味を持ち、サポーター以外の活動も行ってみたいと思ったから。	日本文化を体験してもらいながら伝える活動を通じて、自分の国の文化を再発見して、これから海外に行ったときに今より上手く伝えられるようにしたい。
まちづくりや関連するイベント	都市や地域活性化の活動に興味があったのに加えて、花絵を制作するという活動が楽しそうだったから。	地域の人々とボランティア活動にともに参加して、ボランティア活動の意義を学びたい。また、ボランティア活動をする、また運営する上で注意するべきことや考慮するべきことを実際に学びたい。
博物館	高校時代放送部に所属していて朗読をやっていたことから、その特技を生かしていろいろな人と関わりたいと思ったため。	ボランティアの意義や、自分の知らなかった分野の経験、知識を多くの人と接する中で学びたい。

博物館	私は、この大学に入ってからの博物館、及び学芸員の授業を通して、自身の獲得した知識を人に発信することの魅力に気づきました。さらに、昨年のサロベツ湿原センターでのサブレンジャーの活動で実際にガイドを行ったことや、幼少時代より博物館における展示の特色への関心があったことも、このような多くの資料を所蔵する施設での解説等のボランティアを希望した理由です。特に開拓の村には、北海道が開拓を始めた明治期からの建物がそのまま残されており、北海道の歴史を様々な視点から学ぶことができるだけではなく、かつての日本の暮らしを感じることができるという意味で、ボランティアを実際に行って得られる成果が大きいと考えたことが、この施設を選んだ理由です。	解説の際、訪れた観光客あるいは学生に、ただ自分の持っている知識を話すだけではなく、相手の話をよく聞いて、それに見合った説明を加えることのできるコミュニケーション能力を涵養することを目標として考えています。また、それを通して観光客から新たな知識を得ようとする積極的な姿勢や、イベントなどの運営を適切に行うことのできる力も身に着けたいです。最終的に、相手に対してわかりやすく、楽しく会話する能力、そして海外に行っても困らない北海道ないしは日本に関する知識を習得することを今回の目的としています。
ホームレス支援	先輩に札幌市内の路上生活者の人数調査に参加しないかと誘われ、その後は夜回りや炊き出しに継続的に参加するようになった。	路上生活者を生む社会の問題点、ひいては貧困とは何かについて学ぼうと考えたから。
博物館	北海道の歴史に興味をもったため。	ボランティアの方々の活動に対する考えや姿勢を学びたいと考えています。皆さんの北海道の歴史等に関する知識はどのように身に付けているのかや、楽しんで活動している理由を知りたいです。
まちづくり	私は以前から地域の人と関わるような活動がしたいと考えていて、その流れでは札幌の大きなお祭りであるｙｏｓａｋｏｉソーラン祭りに参加したいと考えていました。しかし、私は踊ることが得意ではなかったため、企画・運営というアプローチを行っているｙｏｓａｋｏｉ学生実行委員会の活動に参加しました。また、高校の時よりボランティア活動を行っていて、この団体が地域と関わるアプローチとしてボランティア活動を行っていたことも、この団体に参加したきっかけでした。	当初、この活動を通じて、仲間と共に良いｙｏｓａｋｏｉソーラン祭りをつくることを目指していました。しかし、深く関わっていくうちに、いかにこのお祭りが様々な人、地域の人や企業に支えられているかを知り、もっと色々な人を巻き込みたいと考えるようになりました。第 23 回ｙｏｓａｋｏｉソーラン祭りを運営するにあたり、自分自身が積極的に外（団体外）にはたらきかけること、また様々な人と関わることが出来るようになることを目標としていました。

国際ボランティア	今後、自分が留学するにあたって、留学直後において自分が実際に直面する問題などを、この実習を通じて擬似的に学ぶことができ、また、そうした問題を抱える留学生たちが、自分がどのような配慮を配ることによって、スムーズな留学生活をスタートすることができるかを考えることを通して、今後の自分の留学での糧にすることができると考えたため。	留学直後における留学生の実利的、心理的な問題点、およびその解決法、緩和法を、ボランティアを通じて学びたいと考えている。さらには、そうした経験を自らの留学においても利用できるように応用することも目標としている。
まちづくり	展示品の創作というのに興味があったからです。	皆で楽しく、できれば素晴らしいと思えるものを作りたいです。
子どもの学習支援	ボランティアは今までほとんどしたことがなかったので、自分にできることは何かと考えた時、やはり勉強を教えることかなと思いました。子どもたちとの交流は苦手ではないので、やるならこれがいいかなと思い、このボランティアにしました。	どのように勉強を教えればいいのか等
子どもの学習支援	人に勉強を教えたりすることが比較的好きで、人に教えるという先生のような仕事を経験したかったから。	人に教えるということは、そのことを良く理解していることが前提であり、人に教えながら自分自身の知識も深めたいと思っている。また、勉強が苦手な子や行き詰まっている子どもを少しでも減らして人に教えることの大変さを実感し、自分自身の教育に対する理解を深めたいと考えている。
博物館	・北海道の歴史について詳しく知りたいため。 ・大学では経験できないお年寄りや全く知らない人たちと同じ目標に向かって活動するため。 ・世界で活動する前に自分自身のバックグラウンドを知るため。	・お年寄りなど年齢層や考え方の違う人々の考え方の理解。 ・北海道の昔の建築物についての知識の増加。 ・来村者とのコミュニケーションの向上。
国際ボランティア	留学生と接することで、自分の英語力の向上につなげたい、国外からくる学生の話を聞いて、外国の文化や、学生生活について知りたいと考えたこと。	・外国の方との接し方。 ・異文化

子どもの学習支援	第１の動機は、子どもと接する仕事に適性があるか否かを知りたいと思い、子どもと接する機会を得たいと考えたことです。私は、将来就きたい職業の選択肢として、学校の先生等の子どもと接する職業を、子どもと接することが苦手だろう、という勝手な思い込みで除外していました。しかし、大学２年生になり、学生生活を、将来を見据えた有意義なものにするに当たり、もう少し視野を広げて将来の職業を考えてみたいと思うようになりました。 第２の動機は人の役に立つことをしたいと考えたことです。私は何をするにも、常に両親や友人など周りの人に支えられていて、にもかかわらず、私の行動は自分のためばかりで、人のために何かをするということがこれまでほとんどありませんでした。このような私でも、学習指導を求めているお子さんの力になることができればと思っています。	・子どもとの接し方。 ・これまで、学習指導をされたことしかないので、学習指導するとはどういうことなのかを知りたい。
高齢者福祉	高齢者施設でのボランティアをしたことがなかったため、やってみたいと思ったから。	ボランティアとしてどのようなことができ、相手に喜んでもらえるのか。どうすれば相手のためになるのか。また、施設でのボランティアを通して社会での介護制度の仕組みがどのようであるかを学びたい。
高齢者福祉	普段あまりかかわる機会のない方々と触れ合ってみたいと思ったから。高齢の方は自分よりも多くのことを経験しているので、色々なお話を伺いたいから。また３回の座学の授業を受けて、人とかかわるボランティアを通じて自分も成長できたら良いなと思ったから。	自然に人の助けとなるにはどうしたら良いのかを知る。高齢の方に敬意をもって話しかけることを学ぶ。公共の場でのふるまい方を身に着ける。ボランティアとはどういうものなのかを実際に体験する。
海外ボランティア（野鳥観察のための道をつくる。）	以前、北海道大学において説明会があった海外ボランティア活動に興味があり、以前からヨーロッパに行ってみたかったこともあり、このプログラムに応募した。また、留学という形よりも日本人が一人という状況の中で他の国の人と英語でコミュニケーションをとってみたかった。	日本の学生は私一人なので、作業中、他の国の人とのコミュニケーションを通して外国の人とどう付き合っていくかや、日本人として何ができるかなどを感じられればいいと思う。

海外ボランティア（アジア諸国へのリサイクル石鹸の寄贈	①出来るだけ多くの、そして質の高いリサイクル石鹸をつくり、それをお届けすることで恵まれない地域のニーズを満たすことにやりがい・魅力を感じました。 ②本活動では、香港の環境にも良い影響を与えることができることも魅力の一つでした。 ③アジアの数か国といった、比較的広い地域にバリューを残せることも動機になりました。	・個人的に、本活動をやるからには、ただ漠然とこのプログラムに参加するのではなく、きちんと目標を立ててそれを成果につなげて、私たち日本人とは普段関わりのない人たちの生活の向上に少しでも貢献したいです。 ・現時点での目標としましては、 ①質・量ともに、今までの成果を上回る。 ②それと同時に単位時間あたりの効率を高める/適宜そのための改善策を提案する。 ③お届け先・ボランティア先のフィードバックを貰い、双方の満足度を回数を追うごとに高める。 ④プログラム終了後は、次回以降のためのシステム上および参加者個人レベルの改善案を提案する。
海外ボランティア（環境保護）	海外でボランティア活動をすることを通じて、様々な国からやってきた人たちと一緒に、英語を使って、海外で働くということを実感したいと思ったから。	・英語を使って様々な国の人たちとコミュニケーションをとること ・海外で働くことを実感すること
海外ボランティア（家の建設）	２年生になってから、建築学科に所属するようになり、製図や模型などを作るが、実際に建物を建てるということはなかなかできないと思いました。なので、実際に建設作業を体験でき、そのうえそれがボランティアにつながるということもあって、とてもいい経験になると思ったからです。	・建設作業 ・現地の文化 ・現地の人々との交流 ・異文化を実際に感じる ・英語で話す機会を作る
高齢者福祉	母が介護福祉の仕事に就いているため、自分もボランティアという形で経験したかったから。	高齢者の考え方 自分たちの見られ方 このボランティアに必要と思われるもの 介護福祉に必要なもの
病院ボランティア	以前からボランティアに興味があり、ボランティアの中で自分の興味のある分野であり、家からも近かったため、病院内に決めた。	病院内での活動の意義 ボランティアの実態

９． 教員への要望

教員への要望
ボランティアを紹介してくださってありがとうございました。
最近は活動に参加する人が減少しています。文理問わず学生にとっても多くのことを得られるはずですので、ぜひ多くの学生に知られるようになれば嬉しく思います。
寮に事前連絡は不要と記載されていましたが、管理人の方は私の担当した留学生の来る時間を知らなかったようなので、その点を改善してもらえるといいと思います。
特にありませんが、ボランティア活動に対して単位を認められることで、ボランティアを開始する良いきっかけになっていると思います。
どんなボランティア活動をするかは自由、というのは良いと思う。やはり、自らが興味のあるボランティア活動に参加すべきだ。 私が参加した CIEE の国際ボランティアプロジェクトは、北大で説明会があった。このプロジェクトは毎年夏と春に行われているので、来学期も説明会が開かれるかもしれない。もし開かれるのであれば、ELMS のメールで受講者に通知することを勧めたい。私は、自分が参加したボランティア活動にとても満足している。
体験報告会に向けて事前の打合わせは１学期中に説明してほしかったです。
事前に報告票の内容にきちんと目を通しておらず、受け入れ先の方にコメントとサインをしてもらわなくてはならないことに気付かなかった自分が言えることではありませんが、成績（合否）に関わり得るコメントの部分などは本人の目に触れないところで別に回収していただける嬉しいです。
開拓の村は札幌市内の人々からは少し遠いので、新渡戸カレッジ生がボランティアに来るときは大変かもしれない。新渡戸カレッジ生は新渡戸学１単位必修なので、ボランティアは本当は１単位分でよい。しかし、インターンシップもボランティアも取りたい人もいると思うのでどちらかで２単位とし、これを必修として３単位、この分野（新渡戸学、ボランティア、インターンシップ）をとるようにすればよい。
韓国の学生は日本と同じようにある程度の参加費を支払っているがほかの国の学生は国際ボランティアに関して、国や学校がお金を出してくれていた。日本にもこういった制度が充実すればいいと思う。
当初の予定とずれていたこともあって、日程調整が難しかったので、変更等あった場合や、先の予定等はなるべく早く周知していただけると助かります。
意見、要望は特にありませんが、臨時の依頼が思いのほか多くて驚きました。
実施内容の変更等については、もう少し早めの通知があったほうが親切であった。また、過去に実施した体験者の意見等をまとめた資料を配布していただけた方が、次の実習者に対する助けとなると感じた。

最初に、わずか10日間ではありましたが、開拓の 村のボランティアは、自分のことを紹介しながら多くの人と交流していくことの楽しさを知ることができました。紹介していただいた木村先生、そして村でいろいろと対応してくださった C さん、あり がとうございました。また要望といたしましては、来年度から開拓の村でボランティアに関わる学生さんへ、村へ行く交通費を支給する制度を作ってもらえたらなと思っています。
特になし
様々なボランティアを紹介して頂けて、自分では検討できないようなボランティアがあることを知ることができました。
テスト前なので早めに書式が知りたかった。他の方もそうであるので、来年からはやめに連絡メールを出すといいと思う。
新渡戸カレッジ生だけに関わらず、より多くの北大生に対してボランティアの呼びかけを行ってもよいと思う。また、現在の新渡戸カレッジのカリキュラムではボランティアとインターンシップの選択形式に事実上なっているが、この２つは性質が異なるものであり、社会に対する視野を広げてもらう意味では新渡戸カレッジ生に対するボランティアの義務化も一つの手であると思う。
障がい者へのボランティア活動を行っている学生が少なく、障がい者への理解も遅れているように思います。もっと障がい者への理解を進めるために何かできることはないのでしょうか？難しいとは思いますが、検討していただきたいです。

10.　参加先からのコメント

参加先	参加先からのコメント
YOSAKOI ソーラン祭り学生実行委員会	当日だけではなく、準備段階から、団体の中心になって活動していました。今後の活動でも中心になってくれることを期待しています。
デイサービスセンターはる　北１７条	利用者様と同じ目線で、とても穏やかな雰囲気で皆様に安心感を与えられるような接し方でした。細かな気配りもできていて素晴らしいと思います。今後のご活躍を期待しています。ボランティア希望の学生さんがいらしたら、いつでもお待ちしています。
札幌国際プラザ外国語ボランティアネットワーク	積極的に外国人観光客のお相手をしてくださいました。真面目に取り組み、吸収しようとする意欲が感じられました。
北海道大学国際本部国際支援課	緊急対応を快諾して下さって、とても助かりました。ありがとうございます。
北海道大学国際本部国際支援課	とても誠実に取り組んで頂き、感謝しております。貴重なご意見も頂いたので、今後に活かしたいと思います。
北海道開拓の村	ボランティアの皆さんとすぐにうちとけ楽しみながら、活動していたことが印象に残っています。「男たちの唄」や「モッコ担ぎ」にも積極的に取り組んでいました。

NPO 法人 Kacotam	子どもたちと真摯に向き合い、小学校低学年から中学３年生まで幅広く担当してもらい、助っています。また、２つの拠点に参加し、積極的に活動をしています。
さっぽろ・まなトピア麻生団地集会所内	受ける子どもたちには、お姉さんのようで特に中学生女子は好評です。１人親家庭の子どもは色々な問題や悩みを抱えていて、学習ボランティアの方に少しずつでも心を開いてほしいと思い「さっぽろ・まなトピア」を開塾しておりますので、それに十分応えていらっしゃっています。ありがとうございます。
さっぽろ・まなトピア札幌市南区民センター	大変ていねいに子どもたちに接してくれています。小学生から中学生までどの科目にもわかりやすく教えてくれるので子どもたちからの信頼もあります。講師はまだ募集中なので、協力してくださる学生さんが増えることを望みます。
社会福祉法人豊芯会	当法人では毎日の高齢者への配食（介護保険）や喫茶店の営業を精神障害のある方たちの仕事として行っています。年末には 300 食を超えるおせちを折詰で販売しており、Ｄさんには、年末の喫茶店でのフロア業務とおせちの仕込みと盛り付けを中心にボランティアとして活動してもらいました。10 代後半から 60 代まで幅広い利用者とコミュニケーションをとりながらの作業でしたので、病や障害を持っている人たちの生きづらさを少しでも理解してくれたなら幸いです。

資料

1． 事前アンケート

概要

項目	内容
実施日 １回目	①2014 年４月 11 日（金）・18 日（金） １学期　オリエンテーション(授業内)
２回目	②2014 年９月 26 日～10 月 14 日 ２学期　履修参加申込期間(web 上)
目的	受講者数の傾向と人数を事前に把握し、体験実習受入先確保のための準備をする。
対象	ボランティア科目のオリエンテーションに参加した学生
質問項目	ボランティア体験の有無 活動内容および時期についての希望 参加先の紹介方法についての希望 その他の希望
方法	①１回目　授業時間内に配付し、回収した。 ②２回目　履修参加登録期間中に web アンケートの URL を掲示板に掲示し、web 上からエクセルでダウンロードして回収した。

①１回目のアンケートの結果（単純集計）

	人数
回答者	42

ボランティア活動体験の有無	人数	%
ある	16	38
ない	26	62
合計	42	100

ボランティア活動体験の内容　（「ある」のみ回答）
高齢者住宅の雪かき, 募金, ゴミ拾い, 社会福祉活動、お祭りの運営, 募金、清掃, 公園のゴミ拾い, 老人ホーム、子どもと遊ぶ、治験, 町内清掃, 教育, 海岸でのごみ収集, 老人ホーム訪問, 老人ホームでの傾聴、山のゴミ拾い、植林活動、特別支援学校で子どもと遊ぶ, 地域のゴミ拾い, 実家周辺地域のゴミ拾い, 自分の住んでいる町の河川をきれいにする運動“岩見沢クリーングリーン大作戦”, 大通りで募金を集めた

ボランティア活動の紹介方法について　（複数回答）	人数	%
① 授業で提供されたリストから選びたい	36	86
② 自分で探したい	6	15
③ 今、自分がしている活動を体験として認めてもらいたい	2	5

「① 授業で提供されたリストから選びたい」と答えた人の希望
子どもやお年寄り、外国人などと触れ合える活動, 東日本大震災復興支援、動物園, 動物関係, 渡日時留学生サポーター（留学支援ボランティア）, 博物館とか, 渡日時留学生サポーター, 植林、合宿系、留学生と関われるもの、海外社会教育施設での活動, 動物関係, 人と関わるもの, 渡日時サポーター, 地域のゴミ拾い、老人ホームで老人の相手, 医療・介護系, 留学生サポーター、NGO、NPO, 留学生支援

「② 自分で探したい」と答えた人の希望
博物館・美術館・動物館のボランティア, 特にないが、地元の函館でできたらよい

「③ 今、自分がしている活動を体験として認めてもらいたい」と答えた人の希望
カタリバ　or　アイセック等、札幌などで行われるお祭りなどの運営

ボランティア活動の時期について　（複数回答）	人数	%
① 夏休みを中心に	25	60
② 10 月実習	16	38
③ 春休みを中心に	7	17
④ その他	4	10

※「10 月実習」=渡日時留学生サポーター

その他ボランティア活動をするにあったって希望することがあれば何でも書いてください。
・ボランティア参加費用の補助 ・小・中学生及び高校生のボランティア活動をも支援しながらこのカリキュラムを進めるべきだ。理由は２つある。１つは小・中学生、高校生は経済的、社会的にはまだ「力」があまりない。その所為でボランティア活動をしたくても活動できない場合が多くある。彼らは「人の役に立ちたい！」「自分たちにだって人の力になれるのに！！」という強く、清く、正しい精神を持っている生徒は多い。しかしその気持ちの多くは社会の現実という名の悪魔にふみにじられてしまう。彼らの自発性を社会は「大人の事情」という都合の良い言葉で打ち砕く気なのか？企業や大人たちの資金援助が必要なのである。２つ目はボランティア活動にコミュニケーションは不可欠であるため、ある活動に関わる多くの人に利益をもたらしうる。小・中学生は特に周囲にいる大人とのコミュニケーション不足が問題視されている。彼らに高校生・大学生・社会人とのコミュニケーションの機会が与えられ、将来のビジョンが見えたりするなどプラスになることは多いだろう。又、高校・大学生にも良いことがある。ある程度の将来像があり、数年後には社会の「戦力」になり、グローバルリーダーになろうとする彼らは、ただ自分だけが一流の人材になるだけでは社会の成長には限界がきてしまう。そこで自分が一流の人材になったら、後輩達を教育する必要がある。その次世代リーダーの育成力もリーダーには求められるとすれば、年下との交流はメリットがある。小中学生、高校・大学生にとって社会性、公共性を育成することとなりうるのだ。多くの子どもたちが独立自尊の社会、世界に貢献する人材になるためのボランティア活動であるべきだ。 ・自分のためにもなるボランティアがしたいです ・海外ボランティア ・よくわからなかった

②　２回目のアンケートの結果

	人数
回答者数	6

ボランティア活動体験の有無	人数
ある	2
ない	4
合計	6

ボランティア活動体験の内容　（「ある」のみ回答）
震災復興ボランティア、丸山動物園環境イベントスタッフ、復興支援 IT ボランティア

ボランティア活動の紹介方法について	人数
① 授業で提供されたリストから選びたい	4
② 自分で探したい	2
③ 今、自分がしている活動を体験として認めてもらいたい	0
合計	6

「① 授業で提供されたリストから選びたい」と答えた人の希望
留学中や海外でのボランティア、留学生支援等、児童福祉施設等、博物館・美術館・動物園・図書館等

「② 自分で探したい」と答えた人の希望
大学病院内補助、ホームレス支援活動

「③ 今、自分がしている活動を体験として認めてもらいたい」と答えた人の希望

ボランティア活動の時期について（複数回答）	第１希望	第２希望	第３希望	合計
① 夏休みを中心に	1	1	2	4
② １０月実習	2	1	1	4
③ 春休みを中心に	0	2	1	3
④ その他	0	0	0	0

※「10 月実習」=渡日時留学生サポーター

その他希望すること
特にありません。

２． 体験報告会の模様

第一回体験報告会

実施日：2014 年９月 26 日（金）18：15～19：45　　情報教育館４階共用多目的教室（2）

報告タイトル
「札幌路地裏通信」
「国際ボランティア」
「ＹＯＳＡＫ０Ｉソーラン祭りをつくりあげる」
「高齢者福祉施設ボランティア」
「高齢者福祉施設ボランティア」
「北海道開拓の村でのボランティア活動の報告」

第二回体験報告会

実施日：2014 年 12 月 5 日（金）18：15～19：45　　情報教育館４階共用多目的室（2）

報告タイトル
「低所得世帯の子どもの学習支援、取り組みかた」
「栗山町のお祭りボランティア活動報告」
「まなトピアでのボランティアについて」
「北海道開拓の村でのボランティア活動」
「ボランティア見聞録～歴史を発信することを知る～」
「インドネシアで家を建てること」
「フランスの森林を切り開いて得たこと」
「～はじめてのりゅうがくせいかつ～のお手伝いとは？」

第三回体験報告会

実施日：2014 年 1 月 29 日（木）18：15～19：45　北図書館１階フロア

報告タイトル
「大学病院内ボランティア」
「留学生サポーター活動報告」
「社会福祉法人豊芯会とまなとぴあでの体験」
「人のために働くということ」
「まなトピアで得たこと」
「ホームレス支援活動 - 労働と福祉を考えてみる - 」

第四回体験報告会

実施日：2015 年 2 月 27 日（金）18：15～19：45　情報教育館４階共用多目的教室（2）

報告タイトル
「デイサービスセンターはるでのボランティアについて」
「ボランティアを通して学んだこと」

３． その他

本科目の受講生が札幌ボランティアコーディネーター研究会での講演を依頼されました。

日時：2014 年 12 月 18 日(木)
場所：北海道大学高等教育推進機構　共用多目的教室（１）

講演中のMさん(左から２番目)

講演中のＫさん(一番左端)

4．過去のニュースレター記事

新渡戸カレッジ授業「ボランティア」が開講しました

新渡戸カレッジは，「国際社会の中で日本人として自覚を持って生き抜くリーダー」を養成する特別教育プログラムです。その中にボランティア活動を体験する授業が位置づけられ，「インターンシップ」「新渡戸学」との３科目から２単位の取得が義務づけられています。「ボランティア」の授業は，今学期から開講し，30 名の学生が受講しています。

新渡戸稲造博士が尽力された「遠友夜学校」には多くの学生と教職員がボランティアとして関わりました。博士の優れた国際性はボランティア精神にも裏付けられていたと言えます。私たちは，英国のアレック・ディクソンの「自らの自由意思によって，社会に参加し，社会を変革し，社会を創造することができる，すべての人に与えられた基本的権利である」とするボランティアの定義をベースとし，ボランティア活動をすることが，平和を実現し，自然環境を守り，貧困をなくし，教育制度を整え，国境を超えた相互理解をすすめる上で大切な活動であるとの考えのもとに授業を実施しています。（写真７）

まず，「ボランティアとは何か（第１回）」，それは「どのような領域で実践されているか（第２回）」，「ボランティアを行うためにどのような『心構え』が必要か（第３回）」を講義しました。次に，講義で学んだ受講学生の要望を聞き取り，それにもとづき全員と個別面談を行いました。学生たちのボランティア活動の体験（30 時間で１単位，60 時間で２単位）については，参加先に活動の事実を証明してもらうためにボランティア活動報告シートを作成しました。活動が終了してからは，事後指導として，体験報告会を含めたふり返りを実施する予定です。事前の面談と事後のふり返りを通じた学生と教員との対話を行うことが，ボランティアにとって「自発性，主体性」（「いわれなくてもやる，いわれてもしない」）を実現するための大切なプロセスであると考えています。既に，よさこいソーラン祭りのボランティアを始めた学生や海外での環境保護の活動に応募した学生もいます。

事前のアンケート調査による学生の希望を踏まえた個別面談の結果，未定の者を除き，渡日時等留学生を支援するボランティア（７名），留学先や海外でのボランティア（３名），福祉施設・病院，ホームレスの支援などのボランティア（５名），児童会館や母子寮等の子どもの学習支援のボランティア（５名），博物館（動物園を含む）・図書館のボランティア（４名），まちづくりや関連するイベントのボランティア（１名），動物愛護のボランティア（１名）に分かれました。夏休みを中心に体験するべく目下希望先との調整を行っています。

（木村　純・川畑　智子）

写真７　授業風景（４月 18 日撮影）

（出典：北海道大学高等教育推進機構 2014『ニュースレター』No. 7 , July，p10）

新渡戸カレッジ　ボランティア体験報告会が行われました

新渡戸カレッジ　ボランティア科目では，ボランティア活動を通じて学んだこと・交流することを目的として年に数回，体験報告会を開催しています。体験報告会では，ボランティアに参加した学生たちが集まって，実習中または実習後にボランティア体験についてプレゼンテーションを行っています。A4 サイズ 1 ～ 2 枚程度の配付資料を準備し，一人 10 分程度の報告と質疑応答を行います。報告内容は，活動先，活動日時，活動内容と，ボランティア活動を体験しての感想（新しい発見や学び，感動するような経験や出会い，困難，改善点など），参加先や指導教員への要望や後輩に伝えたいことについて報告します。これまでに 2 回，体験報告会を実施し，履修参加者 31 名中，計 14 名の学生が体験報告をしました。以下は，その内容と体験報告会の模様です。

平成 26 年 4 月のボランティア科目開講後，最初の体験報告会は 9 月 26 日に行われました。この報告会では，すでにボランティア経験のある学生 2 名と初めてボランティアに参加した 4 名でスタートしました。ボランティア経験のある学生 2 名は，よさこいソーラン祭りやホームレス支援などまちづくりのボランティアについて熱のこもったプレゼンテーションが行われました。また，ボランティア初体験者のうち 2 名が高齢者福祉施設，1 名が博物館等におけるボランティア，そして 1 名は，ドイツに沼地再生を目的とする環境ボランティアに参加しました（写真 1，2）。

二回目の体験報告会は，12 月 5 日に行われました。この報告会では，8 名の学生がプレゼンテーションをしました。2 名が子どもの学習支援，2 名が北海道開拓の村，1 名がまちづくりボランティア，1 名が留学支援ボランティア，そして 2 名が海外ボランティアに参加し，1 名はインドネシアで家を建てるボランティア，もう 1 名がフランスで道路をつくるボランティアに参加しました。このうち，現地の新聞にボランティア活動が取り上げられたものもあり，活気のあるプレゼンテーションが行われました。

（木村　純・川畑　智子）

第一回体験報告会

実施日：平成 26 年 9 月 26 日（金）18：15 ～ 19：45　　情報教育館 4 階共用多目的室（2）

報告タイトル
「札幌路地裏通信」
「国際ボランティア」
「YOSAKOI ソーラン祭りをつくりあげる」
「高齢者福祉施設ボランティア」
「高齢者福祉施設ボランティア」
「北海道開拓の村でのボランティア活動の報告」

第二回体験報告会

実施日：平成 26 年 12 月 5 日（金）18：15 ～ 19：45　　情報教育館 4 階共用多目的室（2）

報告タイトル
「低所得世帯の子どもの学習支援，取り組みかた」
「栗山町のお祭りボランティア活動報告」
「まなトピアでのボランティアについて」
「北海道開拓の村でのボランティア活動」
「ボランティア見聞録～歴史を発信することを知る～」
「インドネシアで家を建てること」
「フランスの森林を切り開いて得たこと」
「～はじめてのりゅうがくせいかつ～のお手伝いとは？」

写真 1　プレゼンの模様

写真 2　海外での活動の模様

（出典：北海道大学高等教育推進機構 2014『ニュースレター』No. 101 , February, p14-15）

新渡戸カレッジ　ボランティア　2014 年度報告書
改訂版

発行日	2015 年　3 月　初版　　（冊子体）
	2015 年 11 月　改訂版（PDF 版）
発行者	北海道大学高等教育推進機構高等教育研究部
	科目責任者　木村純
編集	北海道大学高等教育推進機構高等教育研究部
	川畑智子
	新渡戸カレッジオフィス